

11月10日（火）近江鍛工株式会社を訪問しました！

対談テーマ

滋賀の産業を支える職業人の育成について

県教育委員会では、職業教育を主とする専門学科や総合学科で学習する高校生を対象に、大学や地元企業などと連携し、社会の変化や産業の動向に対応できる資質や能力を備えた、滋賀の産業を支える職業人の育成を目指しています。今回、地元企業である近江鍛工株式会社を訪問し、新たな価値の創造や地域への貢献ができる人材の育成について対談しました。

訪問した委員

土井 真一 委員 藤田 義嗣 委員 岡崎 正彦 委員

窪田 知子 委員 野村 早苗 委員

近江鍛工株式会社について

近江鍛工株式会社は、鉄鋼を扱う技術の先駆者として、さらには非鉄金属の加工の技も向上させ、国内外でリング鍛造・自由鍛造のトップを走り続けています。

また、工程の自動化などにより、誰もが働きやすい就業環境を整えたり、地域の学校のキャリア教育に携わるなど、人材を大切にしたい取組を進めています。



意見交換より

委員:採用に関わり、モノづくりの会社として考えていることはありますか。

近江鍛工:設備投資をして、新しく安全な工場づくりをして、人が集まるようにしています。また、地元の学校で出前講座をして、モノづくりの魅力や仕事のやりがいなどを伝えています。

委員:学校教育に求めることはありますか。

近江鍛工:製造業は、チームで取り組みます。だから、コミュニケーション力と粘り強さを身につけてほしいです。また、道徳的なことや社会常識、ソーシャルスキルの育成をしてほしいと思います。



委員:企業がどのような人材を求めているのか、学校はもっと知るとよいと思います。

近江鍛工:幼稚園や小学校など早い段階から、働くことについての教育をしていくとよいのではないのでしょうか。

教育委員の感想

〈土井委員〉

工場見学の際に、直径の大きな鉄製品を切断するには、鋸刃を動かすのではなく、製品を回転させることで正確に切断できるという説明を伺いました。これからのモノづくりのためには、このように発想を転換して斬新なアイデアを生み出す人材を養成すべきなのか、正確に製品を作る卓越した技術の継承を重視すべきなのか。専門学科等における職業教育の在り方について、広く地元企業の皆様のご意見を伺い、滋賀の産業の将来を見据えて、検討する必要があると感じました。

〈藤田委員〉

日本の経済産業の発展を支えてきた経営実態を視察する事ができました。そこでは時代と共に近代化される設備と、働く人々の就業意識を支える生産方式に、経営の姿を感じる事ができました。特に、モノづくりに人生の価値観を共有できる点において、大変大きな意義があると思いました。これらの実態を未来へ繋ぐ子どもたちへの教育に役立てたいと感じています。

〈岡崎委員〉

国内トップシェアの技術を持つ企業が身近にあったことに驚きました。新幹線や建設機械などの重要部位の部品製造を行う技術から、働く社員の方の誇りと技術を大切に育てる社内の風土を知ることができました。しかしながら、高校生の新規採用に苦悩されている現状もうかがえました。高校教育で働くことの学習や経験を積ませ、自分で進路決定ができる力を高めることが必要と感じました。

〈窪田委員〉

モノづくりの魅力とそれを支える技術力の高さを肌で感じました。また、基本的な生活習慣やコミュニケーションの経験が不足している若者を対象に、自身のキャリア形成を進めていけるように研修を工夫しているというお話を伺いました。幼少期から多種多様な人との関わりや、集団生活を体験する中で何を学び、身につけていくかが、成長の根幹にあると改めて感じました。乳幼児期から学齢期・青年期を経て社会人となっていく過程を丁寧に繋いでいきたいと思います。

〈野村委員〉

滋賀の産業を支える職業人を育成する難しさや、職業人として成長する過程において何が影響し、どのような問題点があるのかなどを探りました。議論の中で、一人の人間が自立し生計を立てるに至るまでには、学校教育だけでなく幼少期からの家庭教育や、児童期などの影響も関わってくる事が挙げられました。また、道徳教育の大切さを改めて感じました。幼少期から途切れることのない教育活動を行っていかねばと思います。



工場見学には、地元の小学生が来ることもあるそうです。



県教育委員会では、職業学科および総合学科の専門性を生かし、新たな価値の創造や地域に貢献する取組を実施することで、社会の変化や産業の動向に対応できるよう生徒の主体性や創造性を育てています。また、滋賀の企業の魅力を理解し、滋賀の産業に誇りと愛着をもった職業人の育成に努めています。

〈教育総務課 企画係〉